

予算特別委員会 産業建設分科会 記録

開 議 年 月 日	令和 8 年 3 月 6 日
開 議 時 刻	午後 1 時27分
閉 会 時 刻	午後 3 時28分
出席 委 員 名	◎岡田善行 ○上村和生 森下知世 中村栄治
	青沼陽一郎 宮本 晃 大西要一 宿 典泰
	北村 勝 議長
欠 席 委 員 名	な し
署 名 者	森下知世 中村栄治
担 当 書 記	森田晃司
審 査 案 件	議案第 3 号 令和 8 年度伊勢市一般会計予算（産業建設分科会関係分）
	議案第 7 号 令和 8 年度伊勢市観光交通対策特別会計予算
	議案第 8 号 令和 8 年度伊勢市土地取得特別会計予算
	議案第10号 令和 8 年度伊勢市水道事業会計予算
	議案第11号 令和 8 年度伊勢市下水道事業会計予算
説 明 員	市長 副市長 ほかに関係参与

審査の経過並びに概要

岡田会長が開議を宣告し、会議成立宣言の後、「議案第3号 令和8年度伊勢市一般会計予算中、産業建設分科会関係分」の歳入から審査を再開し、付託案件全ての審査を終わり、会長報告文について正副会長に一任することで決定し、閉会した。

なお、詳細は以下のとおり。

開議 午後1時27分

◎岡田善行会長

ただいまから予算特別委員会産業建設分科会の継続会議を開きます。

出席者は全員でありますので、会議は成立いたしております。

本日の会議録署名者2名は、会長において、森下委員、中村委員の御両名を指名いたします。

それでは、前回に引き続き、「議案第3号 令和8年度伊勢市一般会計予算」中、当分科会関係分の審査を行います。

歳入の審査をお願いいたします。

予算書の16ページをお開きください。

款2 地方譲与税のうち、当分科会関係分を御審査願います。

【款2 地方譲与税】《項3 森林環境譲与税》 発言なし

◎岡田善行会長

御発言もないようでありますので、款2 地方譲与税の当分科会関係分の審査を終わります。

次に、18ページをお開きください。

款14 交通安全対策特別交付金を款一括で御審査願います。

交通安全対策特別交付金は、18ページから21ページです。

【款14 交通安全対策特別交付金】 発言なし

◎岡田善行会長

御発言もないようでありますので、款14 交通安全対策特別交付金の審査を終わります。

次に、20ページをお開きください。

款15 分担金及び負担金のうち、当分科会関係分を御審査願います。

【款15 分担金及び負担金】《項1 負担金》（目3 土木費負担金） 発言なし

◎岡田善行会長

御発言もないようでありますので、款15 分担金及び負担金の当分科会関係分の審査を終わります。

次に、20ページから23ページの款16使用料及び手数料のうち、当分科会関係分を御審査願います。

【款16使用料及び手数料】《項1使用料》（目4労働使用料）（目5農林水産業使用料）（目6土木使用料）《項2手数料》（目3農林水産業手数料） 発言なし

◎岡田善行会長

御発言もないようでありますので、款16使用料及び手数料の当分科会関係分の審査を終わります。

次に、22ページから27ページの款17国庫支出金のうち、当分科会関係分の御審査をお願いいたします。

【款17国庫支出金】《項2国庫補助金》（目4農林水産業費国庫補助金）（目5商工費国庫補助金）（目6観光費国庫補助金）（目7土木費国庫補助金）《項3委託金》（目3土木費委託金） 発言なし

◎岡田善行会長

御発言もないようでありますので、款17国庫支出金の当分科会関係分の審査を終わります。

次に、26ページから33ページの款18県支出金のうち、当分科会関係分の御審査を願います。

【款18県支出金】《項2県補助金》（目4農林水産業費県補助金）（目5商工費県補助金）（目6土木費県補助金）《項3委託金》（目3農林水産業費委託金）（目4土木費委託金） 発言なし

◎岡田善行会長

御発言もないようでありますので、款18県支出金の当分科会関係分の審査を終わります。

次に、32ページから35ページの款21繰入金のうち、当分科会関係分の御審査を願います。

【款21繰入金】《項1基金繰入金》（目7景観形成基金繰入金）（目10民俗伝統行事継承事業基金繰入金）《項2特別会計繰入金》（目2観光交通対策特別会計繰入金） 発言なし

◎岡田善行会長

御発言もないようでありますので、款21繰入金の当分科会関係分の審査を終わります。

次に、34ページから43ページの款23諸収入のうち、当分科会関係分を御審査願います。

【款23諸収入】《項3貸付金元利収入》（目1総務貸付金元利収入）（目3商工貸付金元利収入）（目4土木貸付金元利収入）《項4受託事業収入》《項5雑入》（目6労働費収

入）（目 7 農林水産業費収入）（目 8 商工費収入）（目 9 観光費収入）（目 10 土木費収入）
発言なし

◎岡田善行会長

御発言もないようでありますので、款 23 諸収入の当分科会関係分の審査を終わります。
以上で歳入の審査を終わり、議案第 3 号中、当分科会関係分の審査を終わります。
次に、一般会計中、当分科会関係分の自由討議を行います。御発言はございませんか。

【一般会計の自由討議】 発言なし

◎岡田善行会長

御発言もないようでありますので、自由討議を終わります。
次に、特別会計の審査に入ります。
227 ページをお開きください。
「議案第 7 号 令和 8 年度伊勢市観光交通対策特別会計予算」を御審査願います。
この議案の審査については、一括で御審査願います。

☆議案第 7 号 令和 8 年度伊勢市観光交通対策特別会計予算

◎岡田善行会長

御発言はございませんか。
宿委員。

○宿典泰委員

観光交通対策特別会計のことですが、全体的な費用の中の 6 億 5,189 万 1,000 円ということ
とで予算計上されておりますけれども、ここの内容について詳細にお願いします。

◎岡田善行会長

交通政策課副参事。

●長交通政策課副参事

委員の御質問にお答えします。

令和 8 年度予算ですけれども、6 億 8,000 万円ということで、前年度から 1 億 1,000 万円
程度増という予算となっております。その増の主な理由でございますけれども、例年にな
い経費が多く発生しておるところでございます。主なものがシルバーウィークの交通対策
でございます。令和 8 年度においては、9 月 19 日から 23 日で 5 連休がシルバーウィークと
してございます。これに対しての特別対策を講じる必要があるというふうに考えておりま
す。例年のゴールデンウィークから初参り、これに加えてもう一つ特別対策をせねばなら
んと、こういうふうに考えておりまして、それにかかる費用が 9,300 万円程度多く必要に
なっておるという状況でございます。

加えて、他会計の繰出金、こちらにつきましては、お木曳行事に関する交通対策の一部を支援させていただくということで、こちらが1,500万円程度ということで、例年にない経費が1億円以上生じてまいりますもので、これの増、主な理由としては、大きくこの2点というふうに考えております。以上となります。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

そうすると、シルバーウィークの分が9,300万円ぐらい見込んでおると、費用をね。そうしますと、通常のゴールデンウィークであつたり年末年始の費用としては、どれぐらい見込んでいますか。別々に教えてください。

◎岡田善行会長
交通政策課副参事。

●長交通政策課副参事

まず、ゴールデンウィークにかかる費用としましては、先ほどのシルバーウィークと同程度見込んでおります。また、初参りの交通対策につきましては約1億8,000万円程度、パーク、それから、交通規制等含めて、その程度と概算してございます。以上です。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

今、駐車場問題として、新しく駐車場を建てようじゃないかという話がありますけれども、結局的に、この年末年始の費用、また、ゴールデンウィークであつたり、シルバーウィークの費用を、これでいくと約3億円少しになりますけれども、そうなると、今度の建設が37億円以上かかってくるということを聞くと、10年、15年分の費用がかかってくるわけでありまして、そのどちらがいいかということも含めて、費用対効果のことを考えると、どういう何か積算になるんでしょうか。コンサルを利用していろいろやってみておると思うんですけれども、コンサルの費用というのが、今、債務負担行為には別にならなっていないですね。

◎岡田善行会長
交通政策課副参事。

●長交通政策課副参事

コンサルの費用。この立駐の建設であつたり運営していく、この事業者を決めるためのお手伝いをさせていただく、アドバイザー業務委託のコンサル経費につきましては、令和

7年の12月補正でもって債務負担行為を設定させていただきまして、既に設定済みとなっております。

また、先ほどの今後の経費に関しましては、このPFI等の手法で、この立駐含め、今後の駐車場の運営、考えておるところでございます。こちらの中で民間事業者のノウハウ等々利用して、通常の運営経費であつたりのコストダウンを見込んでおるところでございます。以上となります。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

今の費用の負担からいって、これから国のほうのどういう補助がもらえるかということが気になるわけですが、新しいそういった立体の駐車場を造るということになると、どれほど国の支援がいただけるかというのは積算されていますか。

◎岡田善行会長
交通政策課副参事。

●長交通政策課副参事

まず、立駐の建設費につきましての国の補助というのは、調べさせていただいたところ、活用できるものは現状のところ見つかっておりません。もしかすると、精算機等のデジタル活用するような提案があった場合には、もしかしたらデジ田等を活用できる可能性ありますけれども、現在の調査の内容としては、以上となります。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

そうしますと、やはり単費で37億円でしたか、それに対して、また道路改良の費用が2,000万円ぐらひはかかるんだろうというような話を聞いております。伐採等の関係は私も積算はしておりませんが、そうすると、やはり37億円以上のものを建てて金利を払ってやるという費用対効果と、今、ゴールデンウィーク、年末年始の渋滞対策、今回はシルバーウィークの話もありますけれども、通常ですと、年末年始とゴールデンウィークということになると、3億円ぐらひの話だったと思うんですが、そうすると、3億円ということになると、先ほどの計算からいくと、もう11年、12年ぐらひのそのいわゆる費用対効果ということがあるわけですが、このあたりは、やはりきちっと積算をしたほうがいいのではないですかと思うんですが、そこら辺はどうですか。

◎岡田善行会長
交通政策課副参事。

●長交通政策課副参事

ありがとうございます。その辺の積算につきましては、令和7年8月の産業建設委員会でも整理させていただいて、御報告させていただいたところではありますけれども、VFMの算定という形で、事業期間20年と見た場合、単年度において通常の公共事業で進めるよりも約4億円から7億円程度効果があるというふうな当時の積算をしておるところでございます。

また、このときには、駐車場料金の見直しも含めての話でありますけれども、このあたり、再度積算もし直して、効果を確認した上で進めてまいりたいと考えております。以上です。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

立体駐車場については、私、ここでは賛否の話はしませんけれど、しかしながら、やはり一番重要なのは地元の受入れとして賛成されとるかどうかということが、やはり大事な話で、そのあたりがやはり最近の地域の同意をもらったということが、自治会長であれ組長さんであれ、そういう方々の一部で賛成がもらったということが同意につながっていることが、後から知った話で、私もね、いろいろな請願を見て、そのことが非常にこれから問われてくる話だろうなと。それと、やはりこれだけSNSがはやってきて、皆さんがそういった形で賛否が出るような話が出てくる以上は、もっと細かくやはり同意を取っていくべき話で、これは館町だけの話ではないんですよ。大体伊勢市民、税金を使う以上は、伊勢市民全域でどうかということをお問わないかん、本当は話であって、そのあたりまでは広くその賛否をとってないわけですから、そのあたりのことをきちっと整理した中で進んでいくべき話で、先ほど申したように、ゴールデンウィークと年末年始だけで大体3億円弱の話なんですね。

今回は、シルバーウィークの話が出て、それはカレンダーによってはそういう重なりがあって、長くお休みが出るという時期もあるでしょう。けれども、年末年始とそのゴールデンウィークというところを狙うんならば、それが3億円とするならば、30数億円ですから10数年分というのは、別に建てなくても、今の費用を充てていけば済むではないかという考え方もあるわけですよ。建てるというときは、今度は改修に向かうというようなことも負担としては出てくる話で、そのあたりのことというのが、やはりコンサルのほうも地元として分かってみえるのかどうかあれですけど、もう一度そこら辺の答弁をいただけないでしょうか。そういった中で、ここ進んでいくべき話で、まだそれは全部、全部決まったばかりではないと思うんですけど、そのあたりのことをもう一度教えてください。

◎岡田善行会長

交通政策課副参事。

●長交通政策課副参事

ありがとうございます。まず、御懸念いただきました地元のほうのお話につきましては、一般質問等でもお答えさせていただいているところでございますけれども、地元自治会長さん含め、役員様へも説明させていただきまして、地元からいただいた要望に対して対応していくということで御了承いただいたところでございます。

ただ、御懸念いただいておりますところ、これで全員が了解したのかというところを指摘いただいているんだと思いますけれども、この立駐の具体案がまた定まってきましたら、そのタイミングでもって地元自治会の役員の皆様にも御相談させていただいて、相談してまいりたいというふうに考えております。以上です。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

いや、自治会やら館町の人であつたりとか、宇治地域の人というのはもう当然、このゴールデンウィークやら年末年始は非常に問題が出るところですから、重点的にやはり御意見を聞いてもらうということは大事ですけど、私何度とも言いますけれども、これは単費でやる以上は税金ですから、市内の皆さんも関係してくる。言うなれば、あとの市内の方というのは、こういうことで建設が行われるということさえも知らないんです。1億円、2億円で建ちまっせという話ではなくて、37億円以上のものが費用がかかって、ここへ建つということさえも知らない。そういう広報も行われていない中で、今どんどん進めようとしとるわけですから、当然、後から知った者は、後追いでいろいろな意見が出てくると思うんですよ。そのことを私は申し上げておるんです。

だから、インターネットでいう2万4,000筆でしたか、何かそんな御意見が出るということも、それに匹敵する話だとは思っています。それはもう県外の人も入っとるか分かりますけれども、だから、そういう意味の同意をもらうについて、ある程度、やはり皆さんも大変御苦労しながらやっていたいと思うけれども、必要ではないかということをもう一度お答え願えませんか。

◎岡田善行会長

交通政策課副参事。

●長交通政策課副参事

ありがとうございます。まず、財源についてでございますけれども、こちら市民の方からの税金を投入することなく、この市営駐車場からの駐車場料金を原資に進めてまいりたいというプランでございます。

それから、市民の方への説明につきましては、やはりこの立体駐車場、それから、この駐車場事業再編の影響を受けるところが、宇治館町含め、この四ヶ町周辺、この方々への影響が大きなものと考えておりますので、その方々への説明を重視すべきであるというふ

うに考えております。以上です。

◎岡田善行会長

すみません、宿委員、まだやりますか。

○宿典泰委員

やりますよ。何でしたか。

◎岡田善行会長

いや、請願が上がっていますし、予算質疑内のできるだけ簡潔にさせていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

○宿典泰委員

観光交通対策というのは、担当の方らも本当に御苦労しながら、収支が本当にバランスよくやっています。ですから、毎年残高として、これがもう積立てに回したりということで、やはりこの会計としては安定的にやっておるということの上で、私は先ほども申し上げておるんですよ。これだけ安定してやっておるのに、やはり新しいものを建てて、何か将来に対する負担を残してしまうようなことはどうかなということもあって申し上げておるんですけど、そのあたりもう一度お答え願えませんか。

◎岡田善行会長

市長。

●鈴木市長

いろいろ先々にわたりまして、また、地元のことにつきまして、御心配いただきましてありがとうございます。

御承知のとおり、当市にとりまして、この渋滞解消って大きな、大きな課題でありまして、パークアンドバスライドを含め、様々な手だてを打ってきているところでございます。

昨今の状況を見てみますと、この昨年、今年の3連休なんかは本当にたくさんの方々がお越しをいただいて、我々としてもできるだけ公共交通を利用してお越しをいただくというキャンペーンも張ってきてはいるものの、やはりなかなか自動車で来られる方が非常に多い状況であります。そういった状況の中で、今、御木本道路の辺りから国道23号線も非常に混み合っておりまして、かねてから交通渋滞によって、救急車両であったり消防車両がやはりなかなか入れない状況を伺っております。まして、最近では住民の方々からは、訪問介護のこともなかなか厳しいんやというお話もいただいております。事業者の方からも、なかなか従業員の通勤にも苦労しておるんやと、そんなお話もいただいております。

そういった中で、渋滞解消やパークアンドバスライドの状況を見ますと、長年やってきた中で運転手不足の課題であったり財務のことであったり、そういった課題も出てきておりまして、そういったことも含めまして、今回この立体駐車場の話を進めさせていただいております。

特に、市の事業につきまして、どこまで住民の理解を得ていくかということは、これは大きな課題であろうかというふうに思っています。当然のことながら、我々全ての事業におきまして、税を使っておりますけれども、これは全ての事業について、全て市民の方々に説明ができるかと、これもなかなか非常に困難な状況であろうかというふうに思っております。

中でも、今回、SNSの中で反対の御意見の御署名をいただいている部分もあろうかと伺っておりますけれども、その点につきましても、我々としましては、一番大事なことは渋滞が続くことによって市民生活に不便が起きている。そういった状況をいかに解消していくかということの中で、今回の事業を進めさせていただきたいと思っておりますので、御理解のほどよろしくお願い申し上げます。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

あの市長が言われたこと、私は本当に思う、感じて、私もそれはもう大反対するような立場ではないんです。少しでも渋滞を軽減していきたい、できればなくしたいということで、市長もやられておるということもよく分かります。

ただ、観光でも言いましたけれど、やはり住民の方が観光で恩恵を受けているねということをやろうという、やはりこれはもうまさに地域の人らは恩恵を受けてないという、もうあまり来んといってくれという立場かも分からんというようなことを言われるのは、やはり残念な話で、かといって、先ほどの費用対効果の話もしましたけれど、ここで今、言っている渋滞がすっぽり収まるんならいいんですけど、そういう状況ではないから、余計近くで渋滞が起こらないのかとか、800台ではなくて本来は2,000台ぐらい要るわけでしょう、計算でいくと。それはもう前のときにもお聞きもしましたけれど、そういった中の話ですから、地域の中でも渋滞が起こらへんのかというような心配とか、そういったもんがやはりある程度形になってからと言われるものの、なかなかそこら辺が見えてないので、やはり心配の上に心配を重ねてきとるということが今、事実だと思います。

そういう意味でも、今の件がええかどうかというのは、私はこの場所が、ここではどうかというのは、もう前の委員会からも言っています。別の場所のほうがええんちゃうかということを申し上げておりますけれど、そこが絶対駄目やということも、担当者が言う以上、私が乗り越えてやるわけにいかないので、そのあたりのことも加味しながらやっていただいたらいいし、先ほどの費用対効果のこととすると、やはりゴールデンウィークと年末年始の3億円ぐらいの費用を11年分ぐらいの費用をかけてやるわけですから、そのあたりはあんまり拙速にやる話ではないんかなというのを非常に感じとるわけですよ。

だから、そういう意味で担当課には、今、会計としては、対策事業としては、本当に収支バランスよくやっていただいて、毎年繰越しもしていただいておりますから、そんな状況で、なぜやはり将来に負担を残すんかなというような感じになるじゃないですか。そういうことで、私はそこら辺のことは慎重にちょっとやっていただきたいということを要望申し上げます。

あの会長、請願出とるやつは、あくまでも委員会でやりますから、それは。

◎岡田善行会長

はい、その委員会やりますから。

○宿典泰委員

委員会やる……

◎岡田善行会長

やる内容を、この予算特別委員会のほうで……

○宿典泰委員

やる内容じゃないですか、これは特別委員会でやる話で、駐車場の問題が出たら……

◎岡田善行会長

駐車場の予算に関しては特別委員会でやってもらっても、駐車場じゃない、すみません。駐車場のこの金額の中身についてはやってもらって結構ですが、立体駐車場の中身までをずっとやられるのはちょっと待ってくださいという意味で言わせていただきました。以上です。

○宿典泰委員

終わります。

◎岡田善行会長

他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎岡田善行会長

発言もないようですので、議案第7号の審査を終わります。

次に、245ページをお開きください。

「議案第8号 令和8年度伊勢市土地取得特別会計予算」を御審査願います。

この議案の審査についても、一括で御審査願います。

☆議案第8号 令和8年度伊勢市土地取得特別会計予算

◎岡田善行会長

御発言はございませんか。

宿委員。

○宿典泰委員

土地取得特別会計ですけど、これはもう御承知のように、行政側の計画をして先行取

得をするということになっておりますけれども、今回 3 億 4,000 万円の費用については、どこをどの程度充てられておるのか教えてください。

◎岡田善行会長
用地課長。

●徳田用地課長

まず、収入のほうにおきましては利息配当金、これが約 760 万円、あと土地の買い付け収入、これが日赤へ借りるところとかというふうなところで収入がありまして、これが約 196 万 5,000 円、あと土地の売払い収入としまして 3,380 万円ほど充てて、あと土地の繰入金というのがありまして、これが先行取得する用地取得の事業代金になるわけですが、これが約 3 億 4,000 万円程度というふうになります。その収入をもって事業用地の取得に努めたり、また、利子等、土地の貸付収入等につきまして基金のほうに償還ということで支出すると、そういった内容となっております。以上です。

○宿典泰委員
いやいや私は……

●徳田用地課長

土地の路線の充てるところでございますけれども、今、考えておるのが、桧尻川 22-1 号線、また、一之木 5 丁目 16 号線、栗野 5-2 号線、下野大湊線、高向小俣線等に充てる予定というふうになっております。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員
それは大体事業費を計上していますから、進捗というのはどのような状況でチェックをしてもらっておるのでしょうか。

◎岡田善行会長
誰でしょうか。
暫時休憩します。

休憩 午後 1 時 53 分
再開 午後 1 時 55 分

◎岡田善行会長
休憩を解き、再開いたします。
基盤整備課長。

●竹内基盤整備課長

道路整備事業の用地の進捗率についてお答えをいたします。

〔「マイク」と呼ぶ者あり〕

◎岡田善行会長

すみません。マイクのほうお願いします。

●竹内基盤整備課長

すみません。まず、桧尻川22－1号線でございますが、こちらにつきましては約90%の進捗率でございます。続きまして、栗野5－2号線につきましては約40%となっております。下野大湊線につきましては現在ゼロ%です。一之木5丁目16号線が約80%となっております。あと、高向小俣線につきましては約90%ということでございます。以上でございます。

○宿典泰委員

神社が何とかって……

●竹内基盤整備課長

下野大湊線はゼロ%でございます。

○宿典泰委員

その前に神社がどうのこうのって言うてなかった。

◎岡田善行会長

暫時休憩します。

休憩 午後1時56分

再開 午後1時56分

◎岡田善行会長

休憩を解き、再開いたします。

宿委員。

○宿典泰委員

下野大湊線というのは、いつその要望が出て、用地として取得をするという状況になったんでしたか。

◎岡田善行会長

誰でしょうか。

暫時休憩します。

休憩 午後 1 時57分

再開 午後 1 時57分

◎岡田善行会長

休憩を解き、再開いたします。

基盤整備課長。

●竹内基盤整備課長

失礼いたしました。

下野大湊線につきましては、令和2年に、まず道路測量のほうをさせていただきまして、その後道路の計画をさせていただいているところでございます。以上でございます。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

この進まない状況というのが、用地買収ができないということに結果的になっておるわけでありまして、それぞれ理由はあるにしても、計画の中で用地買収をやらないことには、もう一步も進まないわけですね。そのあたりのことは、この用地買収について人員的にはどれぐらいの人数の方が、どのような状況で行っておるか、ちょっと報告をください。

◎岡田善行会長

用地課長。

●徳田用地課長

用地買収につきましては、用地係のほうで対応させていただいておりまして、職員2名と会計年度職員2名というふうに、計4名。それで、基盤整備課の者と連携を取りまして、対応させていただいております。以上です。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

いや、私、人数を聞いたというのは、それほど熱心だという言い方はいけませんけれど、1年あるわけですから、それに応じてやっていただいておりますのかなという、やはり用地買収が進まないことには道路問題は片つきません。まあ、私が言うまでもない話ですけど、そのあたりのことというのは、いつまでに、どうしないと、令和2年にこれ決まっておるやつですからね、下野大湊線というのは、それが今になってゼロということになると、これはもうやめるのかという話に思うんですけど、それほどやる気がないとは言いません

けれど、できないということについてもほかに理由があるのでしょうか。

◎岡田善行会長
基盤整備課長。

●竹内基盤整備課長

御心配をおかけしまして申し訳ございません。用地につきましては、当然地権者の方の御意向もございますので、そちらもしっかり対応させていただきながら用地交渉は行っておるところでございます。

今後も引き続き、事業進捗に向けて用地交渉のほうをさせていただきたいというふうに思っています。よろしくお願いします。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

私は、土木費の関係で都市計画上の話をして、都市計画上の道路というのが、もう一歩も前へ進んでいかない状況というのをすごく心配して、やはり土地のこの会計を見ても、なかなか増えていかない。増えていくことがいいことではないけれども、増えるということは、それだけ予定をするということになると思うので、その費用も増えていかない。中身を聞いたら、やっぱりまだゼロ%のところもあると。当然新しいところを入れても、ゼロ%のところを何%か上げていく必要があるために、やはり放るわけにいかないので、そこへかかりきりになるということで、新しい道路問題というのは一向に進まんのではないかなということを大変危惧します。

そういう意味では、伊勢のまちづくりというのか、都市計画上の道路を整備していこうということになったら、やはりこういう土地問題というんか用地問題もきちっと、その年度、年度でやられていくということが最大必要ではないかなと、こう思うんですけど、そのあたりはいかがでしょうか。

◎岡田善行会長
都市整備部長。

●上田都市整備部長

用地の取得に関して御意見をいただいたということでお答えさせていただきます。

我々用地課を含め、担当課一緒になって用地の御協力をいただけないかということで、主にやっぱり夜になるんですけれども、行かせてもらっています。ただ、個人様の御都合もございますし、毎日行けばいいんかと、そういうわけにもいきませんので、そこら辺は粘り強く進めさせていただきます。

あと、都市計画道路のお話もいただきましたけれども、やっぱり限られた予算の中でやっております。新しい道路を造って、まちが変わっていく。そういったことが私らも理想

であります。マスタープランにも描かれているような道路網を造る。それが将来像だと思っていますけれども、やはり限られた予算の中、時間もかかる中、また、10年、20年前とは違ったインフラの老朽化の対策、そういったことにも費用がかかっておるのも事実でございますので、繰り返しになりますけれども、限られた予算の中、その両方、新しい道路と今までの施設、土木施設を維持していく、そういったことも並行して、安全で安心なまちづくり、そういったことに努めてまいりますので、御理解いただきますようよろしくお願いいたします。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

担当課のほうのお気持ちは本当に分かります。土地問題ですから、そんなに順調に行くということは、私も思っていません。ただ、年数がかかってしまうということは、変わらないということになってしまうので、当初平成24年ですよ、都市計画審議会で道路問題をやったのがね。それで29本から改良しましょうなど、その整備の高いもんから、中から、10年以上はかかりますよねというところもやったんですけれども、全然それが前へ進んでいかない。そのうちには、交通網の対策であったりとか人の動きというのが全然変わってきましたから、いや、そうじゃなくて、こちらに橋が要るよねというような問題までなってきたわけですね。

だから、この年数がかかってしまうというのは、やはり担当課のほうの理由で言われておるけれど、生活をしておる市民から見ると、何で私のところの前のこの細い道がもうちょっと広くならんのかなと、生活道路がよくならんのかなということ、やはりずっと抱えてくる問題じゃないですか。そこが路線に入って用地も買収に行っていますよと、だけれども、もう今、5年かかっていますという話では、そのうちやはり市民も声を上げないようになってきますよね。やはり住みたいという意識からすると、そのようなインフラ整備をやっていかないと、これはもう突き詰めてそういうことになってくると思うので、用地課の人であり、担当の人が手を抜いてというような、そんなことは絶対ないと思います。でも、進まないということは何らかの原因があるのか、無理やり通そうということになっておるのか、ちょっと別の方法を考えることもできるかも分かんないので、やはり対策として、何本も路線があってしておるけれども、前へ進まんということについてはいかがかなと思うんですけれど、もう一度お答え願えませんか。

◎岡田善行会長
都市整備部長。

●上田都市整備部長

ただいま御意見いただきました桧尻22-1号線、一之木5丁目16号線とか今、進めておりますけれども、やはり人対人でのお話でさせてもらっていますけれども、本人の御都合が大きいなというふうに私どもは感じておりますので、粘り強く協力いただけるように努

めてまいりますので、御理解賜りますようよろしくお願いします。

◎岡田善行会長

よろしいですか。

○宿典泰委員

はい。

◎岡田善行会長

他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎岡田善行会長

御発言もないようでありますので、議案第8号の審査を終わります。

次に、特別会計中、当分科会関係分の自由討議を行いたいと思いますが、御発言はございませんか。

【特別会計の自由討議】 発言なし

◎岡田善行会長

発言もないようでありますので、自由討議を終わります。

次に、企業会計の審査に入ります。

285ページをお開きください。

「議案第10号 令和8年度伊勢市水道事業会計予算」を御審査願います。

この議案の審査についても、一括で御審査願います。

☆議案第10号 令和8年度伊勢市水道事業会計予算

◎岡田善行会長

御発言はございませんか。

宿委員。

○宿典泰委員

すみません。水道事業の会計の予算のことについてお伺いをしたいと思います。

今、人口減少、また、給水の人口が減るということで、大変会計には御苦勞をしておると思います。毎年、安全・安心に水の供給をしていただいていることについては、市民と共に感謝をするわけでありますけれども、今回、給水人口の設定を何人ほどにしたのかということを教えてください。

◎岡田善行会長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

令和8年度の給水人口につきましては11万5,129人を想定しております。以上です。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

令和7年とすると、約2,000人ぐらい減ったということになるわけでありますけれども、2,000人の給水人口が減ると給水の収入としては幾らほど減るわけでしょうか。

◎岡田善行会長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

具体的に、ちょっと1人で幾らというのなかなかはじきにくいところはあるかもしれませんが、水道ビジョンでいきますと、例年、毎年2,000万円ほど人口減少に伴って給水収益が減っていくというふうに見積もらさせていただいておりますけれども、今回、委員、2,000人ほどということでは、令和6年度決算から踏まえていきますと、給水人口につきましては、すみません、1,200、300人ほど毎年減っておる形で、令和6年度決算から令和7年度については1,260人、それから、令和8年度も同人数が減っていくというふうに見積もらさせていただいております。

その中で、令和7年度の、こちらは当初予算との比較になりますけれども、令和8年度の当初予算につきましては、税込みで約4,000万円ほどの減収、給水収益につきましては減収ということで見積もっております。以上です。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

その影響かなということをちょっと考えて申し上げたんですけれども、結局この予算で当年度の利益が赤字の4,000万円からということになっておるわけですよ。そのあたりの事情というのを、もう少しお聞かせ願えませんでしょうか。やっぱり予算で赤字を計上するということは、対策がもうないのかなというような感じに思われて仕方ないので、そのあたりのことを説明をしてください。

◎岡田善行会長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

令和7年度から令和8年度にかけまして、令和8年度の見積りに当たりまして、収入におきましては先ほど答弁させていただいた内容でございます。それから、支出のほうにつきましても、これまで老朽管の更新や耐震化の整備というのを行ってまいりました。その中で、翌年度の減価償却費や企業債の利息、こういったもの、それから、毎回言わせてもらっておるんですけれども、物価の上昇や、あと労務費の上昇、こういったことも重なりにまして、昨年度と比較しますと約5,800万円の利益の減少ということで、今回4,000万円の赤字計上ということになりました。以上です。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

収入の確保で今、重要やと言われておるのが漏水対策だと思うんですけれど、その漏水対策について、調査も含めてどのような形でやっておるか確認をしたいと思います。

◎岡田善行会長
上水道課副参事。

●服部上水道課副参事

漏水調査におきましては、これまで市内を4区域に分けまして、その4分の1ずつ毎年漏水の調査をしてまいっております。以上でございます。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

やってもらったことはよく分かっておるんですけれども、結果的に有収率を上げることになるわけなんですけれど、その4区画の漏水対策を今の状況から収入をきちっと取ろうと思うと、有収率を上げようとなると漏水対策を今以上に毎年、毎年やっていかないとということになるわけでしょう。その漏水対策というのは、令和7年度と違って、令和8年度というのはどのような形になっていくのかなということを教えていただきたい。

◎岡田善行会長
上水道課副参事。

●服部上水道課副参事

今年度A Iによる管路の劣化診断というのも行わせていただいております。その結果に基づきまして、今年度も漏水リスクの高いところ、そこを漏水調査をかけまして、精度の向上ということを図っていきたいと考えております。

令和8年度におきましても、その結果を生かしながら漏水調査の範囲も絞り込みまして、

それで、老朽管更新につきましても、老朽管更新の計画にも反映していきたいと考えております。その上で有収率の向上と、そのほうにつなげていきたいと考えております。以上でございます。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

通常の漏水調査ということになると、路面音聴ということになって、そのいわゆる区域を分けて調査をしていただいておりますと思うんですけども、この劣化診断ということは出ましたけれども、こういった形でやってもらっておるか、また、どれほど漏水のほうの調査について、いい効果が現れるかというところになると思うんですけど、教えてください。

◎岡田善行会長
上下水道部次長。

●濱口上下水道部次長

今、言われましたA I 診断といいますのは、まず、地形データ、土質のデータ、それから、交通量、それから、その他様々な、いろいろな要素を地図上で重ね合わせまして、当然上水道課で持つておる、これまで漏水した箇所のデータも入れまして、マッピング上で、どこが一番危険度が高いかという、これまで先ほども説明させていただいたんですけども、区域を4か所に分けて毎年やっておるんですけども、いたちごっこのような状態で、こちらのほうも古いから割れるという考えではなくて、場所で割れるんじゃないかということにちょっとA I 診断を通しましてちょっと今、分析をしております。その危険度の高い部分を今年度は調査を入らせていただきました。以上です。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

その劣化診断というのはA I を使うと。そうすると、それは相当費用かかると思うんですけど、そのいわゆる費用対効果ということも考えると、どのような状況なのでしょう。

◎岡田善行会長
上下水道部次長。

●濱口上下水道部次長

今年度の委託費は令和7年度が約1,400万円、これは国のほうのD X の補助金をいただきまして、約2分の1の補助金をいただいております。当然それだけお金をかけましたの

で、漏水調査だけではなく、先ほどもちょっと言わせていただきましたけれど、今後の老朽管の更新にもそちらのほうを使わせていただいて、重点的に危険な箇所から更新を計画していきたいと考えております。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

そうすると、これができていくということになると、有収率が歴然と上がってくるのではないかなと、こう期待をするんですけど、そのあたりの有収率というのが、水道ビジョンと比較すると、水道ビジョンのほう計画としては88.6%と、すごくいいんですよね。それを超えてくるような状況になるのか、ちょっと教えてください。

◎岡田善行会長
上水道課副参事。

●服部上水道課副参事

令和8年の有収率でございますけれども、先ほど委員おっしゃられたとおり、ビジョンのほうで88.6%としておりまして、我々のほうとしての見込みとしましては85.3%と見込んでおります。この3.3%の開きですけれども、まだまだこれまで発見されていない地下漏水によるところが大きいんじゃないかなと分析しております。

先ほども申し上げましたけれども、A Iの劣化診断も出てまいりましたので、それに基づいて、今後、漏水調査による修繕も進めまして、効率的な老朽管更新を、時間かかるかも分かりませんが、させてもらいまして、今後、有収率の向上というところにつなげていきたいと考えております。以上でございます。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

有収率を上げるということが、もうキーになってきとることは、もう当たり前の話だとは思います。

それとやはり水道事業会計の中で行財政改革と言われる、一般的に、こういったところを縮小して、こういったところをやはり伸ばしていかないかと、それが収入に対応していけるかというようなことであると思うんですけど、この内部的な改革というのはどのように行われているか教えてください。

◎岡田善行会長
上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

これまでかなり古い、前からの話になりますけれども、合併当時から水道事業におきましては、人件費の削減や民間委託の推進、そういったものも当たり前のことですが、進めてこれまでまいってまいりました。

今後につきましても、当然経費削減、そういったものを意識しながら、コスト削減を意識しながらの業務を進めながらも、例えば、ハード面におきましては、今後、施設が更新すべき時期に来たときに、当然サイズをきちっとダウンサイジングというのも図りながら、それからまた、今、県のほうで、周りの市町と県と一緒に配水池が更新に来たときに、例えば、大仏山辺りですと、玉城町、明和町、伊勢市の配水池が近くにありますので、今後そこを更新するに当たっては一緒に造ることによって安くないかというようなシミュレーションも、現在行っております。そういったことを進めながら、少しでも経費を、コスト削減を進めてまいりたい、そういうふうに考えております。以上でございます。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

水道事業のほうは、見させていただくと、本当にきめ細やかに頑張っていただいとるよなという印象はあるんですけど、やはりキーになってくるのは、受水費の関係ではないかなと思うんですけど、企業庁のほうから、やはり企業庁も内部留保を持ちながら令和7年、令和8年は、たしか据え置きするよという話で、今年ぐらいから来年に向けて、令和9年に向けて交渉が始まるのかなと思うんですけど、この受水費をいかに下げられるかということも実は収支の一番大きな話だと思うんですけど、このあたりはどのような流れになっていますか。

◎岡田善行会長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

委員おっしゃっていただきますように、この受水費につきましては経費の約22%を占めておりますので、かなり経営に及ぼす影響は大きいと我々も考えております。来年度ですね、委員おっしゃるように、企業庁、ここ2年は据え置きということで令和6年度の交渉をしていただきましたが、そのときにはこの先というのは、やはり我々と一緒に経費も上がってきたり更新もあるということで、なかなか厳しいというような話もいただいておりますけれども、私どもとしまして、来年度、その交渉の中で企業庁の財政収支計画であったり建設改良計画、そういったものを見ながら積極的に意見交換を実施しまして、少しでも受水費が安くなるよう来年交渉してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いします。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

その件は本当に期待をしたいと思います。伊勢市の一般会計から4,000万円からの繰出金がありながら、やはり今の予定でいくと4,000万円の赤字やということになると、ちょっともう心配をしています。

それで、水道ビジョンでいくと、たしか令和10年には、もう繰越金もなくなって枯渇してくるという状況の中で、水道料金の値上げの問題があるんじゃないかなということで以前から言わせていただけてますけれども、こういった話については何か延長があるとか、令和10年は心配ないようになりましてとか、何かいい報告はないでしょうかね。

◎岡田善行会長

上下水道部長。

●成川上下水道部長

数年前にお示しをさせていただきました水道事業ビジョンでは、計画末であります令和9年度に赤字が出ると。その計画の次の翌年度に、令和11年度に内部留保資金、貯金ですけれども、がもうなくなるということで、その計画末に向けて、また、その料金の見直しの検討も進めていかなければいけないということで、その先の参考値としてシミュレーションもさせていただいているという状況でございます。

現状、その比較ということになりますと、今、御審議いただいております令和8年度予算においては、合併後、初めて予算上で赤字予算を組んだということになるんですけれども、あくまで水道事業ビジョンは決算ベースで見込んでおりますので、予算との比較というのは難しいんですけれども、赤字を出すというのは1年ちょっと前倒しになってしまったような状況でございます。

そういった意味では、良好な方向には行っていないと言いますのも、昨今の労務費の高騰とか資材の高騰とか物価高の影響も受けておりますので、決してよくなっていく方向の状況じゃないということで分析をしております。以上です。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

お聞きすると、そんなに改善はされていないと。このまま行くと、水道料金の値上げをせざるを得んというような状況だということに聞こえました。それを私は「よかったな」と言うわけにいかないので、これはもう市民の立場からすると、今、水道事業会計としては本当に頑張っただいただけていますけれども、やはり今、安心な水をいつまで続けてもらはんやということが、これは全国の水道会計のシミュレーションを見ても、どこもかもやはり一番頭を抱えておる問題で、水道の料金をやはりある程度上げざるを得んというような状況のことをすごく感じます。

でも、それはどういう上げ方をするかも含めて、やはり今、物価高と言いながら、何か予算を含めてやっている一方で、水道料金を上げんのやというわけにいきませんので、そこら辺は何か納得できるような状況で水道料金の上げ方についても、考慮する必要があるんかなと、こんなことを思います。

ちょっと防災対策のことをちょっとお聞きをしたい。

その前に、いわゆる P F A S とか、それが環境省のほうから包括的な何か健康管理についての何か指針が出て、これからどうしていくんやという話をお聞きをしたんですけれども、そのあたりのところはどのように対応していくか、お聞かせください。

◎岡田善行会長

上水道課副参事。

●服部上水道課副参事

P F A S に関してですけれども、これまで厚生労働省のほうの水質管理目標設定項目に令和 2 年度に追加しまして、これまで我々のほうとしても水質管理を行ってまいりました。これまで水質管理目標設定項目の基準に基づきまして検査してきたところ、超過した事例はございませんでした。

今後の動きなんですけれども、令和 8 年 4 月から、これらの水質管理目標設定項目から水質基準のほうへ引上げになります。基準値のほうなんですけれども、P F O S と P F O A のこれまで合計値が 1 リットル当たり 50 ナノグラムということになっておりましたが、この基準値については変更はございません。検査頻度につきましては、これまで年 1 回という話だったんですけれども、それが上水に関して 3 か月毎ということで変更になっております。以上でございます。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

それについては安心をしました。伊勢のほうでは地域によっては少しあったという地域もありましたけれど、今現在、問題がないということでお聞きをしました。

災害時の問題として、以前にも災害井戸のことを申し上げたんですけれども、市内で 271 か所あるということは聞きましたけれど、その後、この令和 8 年度で何か 15 か所ぐらい検査をして、10 か所ぐらい増やしていきたいということがありましたけれど、これはもう生活用水で使うということで大事な話だと思うので、ちょっと聞かせてください。

◎岡田善行会長

危機管理部長。

●日置危機管理部長

伊勢市では、井戸については、市民の方に御協力いただきます災害用井戸というふうな

ものと、それから、市が設置しております防災井戸、こちらのほうを区分して使い分けております。委員仰せのお話については、避難所、市の施設であるところの避難所について今、設置をしに行っているんですが、15か所試掘をさせていただきました結果、7か所が水が出そうだというふうなことになりましたので、現在7か所を整備しに行っていると、そのような状況でございます。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

まあ、ある程度、環境面での基準値があるかどうかというようなことも含めて調査が必要になってくると思うんですけど、その費用というのは、もう危機管理のほうでもって、この270何か所か、80か所になるのかあれですけど、やっていただくということなんです。

◎岡田善行会長
危機管理部長。

●日置危機管理部長

こちらのほうにつきましては、厚生労働省が定める基準におきまして検査をしておるんですが、これについては登録をしていただいたときにさせていただいて、そして、その札をかけていただくと、そのような運用をさせていただいております。以上でございます。

○宿典泰委員
費用のことを聞いたよ。

◎岡田善行会長
ですね。

○宿典泰委員
費用はあんたところ出の。

◎岡田善行会長
危機管理のほうから費用が出るかどうかという質問ですので、その点だけ教えてください。
危機管理部長。

●日置危機管理部長

大変申し訳ございません。その際の費用は危機管理のほうで持っております。以上です。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

分かりました。水道のほう、各種、私のほうからも質問をさせていただきました。繰出金も4,000万円からもらいながらということで、今年は残念ながら4,000万円からの赤字やということでスタートするわけでありましてけれども、先ほど御質問申し上げたように、市民の方は決して、上げない、上げないということを賛成するというような状況ではないと思うんですね。特に、この物価高ということからすると、なかなか水道まで上げるのかなという話になってござるを得るので、そのあたり、次の下水道でも絡んでくる話かも分かりませんが、慎重に、やはり丁寧にやっていただきたいなと、こんなことを思います。

それと、やはり漏水対策については、もう少しきめ細かに、我々も分かるような、A I といって劣化診断があるということを信用していないわけではありませんけれど、それで本当に、収支のうちの収入が取れるのかどうかということが非常に気になる部分でありますので、お願いをしたいと思います。

それと、今日はもう質問もしませんでしたけれど、やはり施設の耐震化というのは、もう順次進めていただいておりますので、質問をもしませんでしたけれど、あと、液状化の問題で何か管理、また、マンホールに問題があるというようなことでも困る話ですので、そのあたりも、いつ震災が起こるか分からんという意味合いでも、慎重に、早急にやっていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。それだけ申し上げて質問終わっておきます。ありがとうございました。

◎岡田善行会長
他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎岡田善行会長

発言もないようですので、議案第10号の審査を終わります。

会議の途中ですが、2時40分まで休憩させていただきます。

休憩 午後2時30分

再開 午後2時37分

◎岡田善行会長

休憩を解き、再開いたします。

次に、313ページをお開きください。

「議案第11号 令和8年度伊勢市下水道事業会計予算」を御審査願います。

この議案の審査についても、一括で御審査願います。

☆議案第11号 令和8年度伊勢市下水道事業会計予算

◎岡田善行会長

御発言はございませんか。

宮本委員。

○宮本晃委員

私は、款 1 下水道事業費用、項 3 特別損失、目 1 解体撤去費について御質問いたします。

こちらに委託料として5,800万円が上がっております。恐らくこの五十鈴川中村浄化センターの件やと思いますけれど、この委託料の5,800万円の内容について御説明をお願いします。

◎岡田善行会長

下水道課長。

●岡井下水道課長

この解体費用、これにつきましては、現在、宇治中村地区の排水処理を五十鈴川中村浄化センターで行っておるんですが、令和 8 年度に流域下水道へ接続替えを行い、五十鈴川中村浄化センターを廃止し、解体するということしております。廃止した後には、施設の解体撤去を進めますが、既存施設に残る汚水、汚泥、こういったものを処理をする必要があり、その処理、運搬にかかる費用及びこの解体工事前に施設を洗浄しないといけないというようなところで、その洗浄費及び解体に係る詳細設計、委託費、こちらのほうを計上しております。

◎岡田善行会長

宮本委員。

○宮本晃委員

分かりましたというか、こういった清掃、解体というのは、まず伊勢市では初めてやと思いますので、今のお話聞くと、清掃だけじゃなくて解体に伴う設計も見とるということが分かりました。そうすると、解体については令和 9 年度以降ということではよろしかったでしょうか。

◎岡田善行会長

下水道課長。

●岡井下水道課長

委員仰せのとおり、令和 9 年度以降で予定はしております。

◎岡田善行会長

宮本委員。

○宮本晃委員

よく分かりました。次に、款 1、資本的支出、項 1、建設改良費、目 5 番、雨水管渠更新費というところです。こちらに工事請負費が出ています。5 億 650 万円ですか、この工事の内容について御説明をお願いします。

◎岡田善行会長

下水道課長。

●岡井下水道課長

こちらの工事請負費ですが、これにつきましては、以前にもお話しさせてもらったんですが、下水道管路の全国特別調査、こちらをした後に、「緊急度Ⅰ」判定を受けた 434 メートルのうち 179 メートル分、こちらを 12 月の補正で計上しております。その残る 255 メートル、こちらの改良の費用を計上しております。また、雨水の耐震工事、こちらについても費用を計上しております。以上です。

◎岡田善行会長

宮本委員。

○宮本晃委員

ありがとうございます。今のおっしゃられたのは、この 12 月 17 日の産業建設委員協議会で御報告があった件でして、そのときに令和 7 年度の補正以外については、令和 8 年度、残り全て考えておるということで、今のこちらの予算に上がっているということが確認できました。

そうですね。このときにも説明がありましたが、この令和 7 年 1 月 28 日の埼玉におけるこの下水道管の原因となる道路陥没事故が起こったということで、市民の方々は、やはりこの映像で大分影響を受けていまして、最近本当に下水道じゃないんですけど、道路の下がりとかあるとちょっと心配の声をよく聞いて、現場を見に行くと、単なる埋め戻しの下がりであったりとかというところで、やはりこの道路の下がり、この下水道管の下がりというのはすごく気にされています。

そして、この協議会のときに、12 月 17 日のときに、「緊急度Ⅰ」、今 434 メートルに対しての補正と令和 7 年度補正分として、この令和 8 年度分で全てやられるということですが、この協議会のときに近鉄の下、これも「緊急度Ⅰ」、81 メートルというものがありました。そのときには、今、協議中やったということですが、やはり道路の下と、この鉄道の下では工法も違ってくると思いますが、今、近鉄さんとのその 81 メートルに対するところの改善措置についての協議内容とか、今どんなふうになっているか教えてください。

◎岡田善行会長

下水道課長。

●岡井下水道課長

この箇所については、委員仰せのように、今、近鉄のほうと協議をしておるところで、まだ結論は出ておりませんので、継続して協議を進めていきたいと考えております。以上です。

◎岡田善行会長

宮本委員。

○宮本晃委員

今、言いましたように、まず工法的なものが違ってくると思いますし、鉄道事業者さんの工事にもなってくるかも分かりませんが、引き続き、その協議のほうを進めていただいて、下水道の陥没の事故がないように取り組んでいただくようよろしくお願いします。終わります。

◎岡田善行会長

他にございませんか。

宿委員。

○宿典泰委員

今回、下水道事業会計の予算を見させていただいて、数点、質問をさせていただきたいと思います。

1つは、今回、令和8年度の大きな事業というのは、五十鈴川の処理区、フレックスプランの統合にあるのではないかなと、こんなことを思います。一般の感覚でいくと、フレックスプランは、もう既に宇治浦田のほうで下水処理が行われとって、この流域下水道のほうは今、5期に向けて令和12年までで完成をしようということで、統合する意味というのが、私も当初あんまり感じられなかったんですけども、それこそ費用対効果があるのかという、そこら辺の説明をしていただけないでしょうか。

◎岡田善行会長

下水道課長。

●岡井下水道課長

統合につきましては、まず1点、施設の老朽化、こういったところもありまして、更新費用、こちらにも莫大なお金がかかります。あとまた人件費等、処理施設を維持管理していくために、そういったものも必要になってきます。こういったものの削減というところもあり、統合を考えております。以上でございます。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

統合の費用はどれぐらいかかるのでしょうか。

◎岡田善行会長

誰でしょうか。

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

統合につきましては、まず、つなげる管渠の整備が必要になってまいります。それから、先ほど下水道課長が説明させていただいた解体費、そういったものも含んで費用というふうに見させていただきますと、国からの補助金等も国のほうは広域化、統合というのを進めておりますので、その辺を除いた部分ということで概算になりますけれども、約11億5,000万円というふうに見積もっております。以上です。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

分かりました。それだけの費用をかけて、また、国からの補助が出るというのは大きな話かも知れませんが、それで統合していくということは理由は分かりました。

今回、下水道会計のほうでも、残念ながら赤字の予算ということになっています。1億8,724万9,000円ということですから、実際には一般会計のほうから20億3,500万円から繰入れをいただきながら、こういう状況ということについて、どのような感じで予算を組んでみえるのか、教えていただけますか。

◎岡田善行会長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

令和8年度の予定しております損失としましては、委員おっしゃられたとおりでございます。そのうち先ほどあります特別損失、収益を除きますと約1億6,000万円です。下水道事業会計は、これまでも一般会計から繰入れがないと、損失という形の中で繰入れをもって純利益という形になっておりました。今回も、まず下水道側で見積もった際は、損失ということになりましたけれども、理由としましては、水道も説明させてもらったんですが、整備費に伴います減価償却費が増加しております。それから、それに伴う借入れに対して利息も払っていかないけませんので、金利というのが、ここ最近でかなり上がっております。その辺の分も含めて経費としてはかなり昨年度に比べてかかったところで、その後、財政との例年協議させていただくんですけれども、今年度は最終的には基準内、基準外、合わせまして20億3,500万円という形になりまして、結果1億8,000万円の損失ということになりました。以上でございます。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

これは改めて御説明をしてほしいと思うんですけれども、下水道事業が、工事が終わった路線が翌年度には収入として出てくるのかなということを私も考えておった時期がありました。皆さんにお教ををいただいて、収入として出てくるのが6年ぐらいかかるというようなことを聞きますと、そのあたりタイマーがちょっと違うので、ちょっとそのあたり6年かかるというのを、ちょっと教えていただけませんかでしょうか。

◎岡田善行会長
給排水サービス課副参事。

●松田給排水サービス課副参事

6年間というのは今までの実績に応じまして6年間で85%に達するということで見込みを立てております。以上でございます。

◎岡田善行会長
給排水サービス課長。

●森本給排水サービス課長

すみません。ちょっと補足させていただきます。

現在見積もっておるのが、1年目40%の接続率、次の年、2年目が15%。それから3年目、15%、その先が10%、5%というような形で、85%という見立てで計算のほうしております。以上です。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

それは申し訳ないんですけれども、地域によっては、もう2年目で相当80%ぐらい行くという地域はないんでしょうか。

◎岡田善行会長
給排水サービス課長。

●森本給排水サービス課長

随分前の話になるんですけれども、今の五十鈴川中村の特定環境の部分は、2年、3年でそういうふうな数字に達したところもありましたが、現在のところはちょっとないよう

な状況です。以上です。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

それについては、皆さんの今後の努力も含めて、広報も含めてよろしくお願いをしたいと思います。

今回の予算立てですけれども、以前、この下水道というと汚水事業と雨水事業があると。汚水事業に75%ぐらいかな、費用を費やして予算に対しては75%ぐらいが汚水で、雨水のほうは25%ぐらいだというような状況で立てておったと思うんですけれども、今回どういった形で、約でよろしいんですけれども、何%ぐらいになったんでしょう。

◎岡田善行会長
上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

令和8年度の建設改良費につきましては、約56.6%が汚水事業になりまして、残り43.4%が雨水事業の経費となります。以上です。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

ここの費用が上がったというのは、桧尻川2号の話で膨れたということなんでしょうか。何かほかに対策をしておるというのがあったら聞かせてください。

◎岡田善行会長
下水道課長。

●岡井下水道課長

委員仰せのように、桧尻2号幹線、こちらの事業費及び雨水管渠の更新、点検の結果で補修が要るような、ああいったところの補修費、そういったところで事業費が増額となっております。以上です。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

私は以前から汚水事業をどんどん進めるよりも、やはり大雨時の冠水対策であったりと

か、そのためには雨水事業を積極的にやってくださいよと、極論を言うと、逆転するぐらいの費用で雨水対策をしてくださいということを申し上げておったので、雨水事業が多くなるということにはもう大賛成です。その中の桧尻2号線のほうの幹線ができると、相当雨水対策ができるのかなというように思うんですけども、そのあたりは対策としてはいかがでしょうか。

◎岡田善行会長

下水道課長。

●岡井下水道課長

桧尻2号幹線、こちらのほうができますと、伊勢市駅北側、あと八間道路沿い、そういったところの浸水被害の軽減が図れるというふうに考えております。また、国の事業であったり三重県の事業、ポンプの増強であったり河川の桧尻川の改修、こういったところもできてきますと、さらに効果が上がってくるのかなというふうには考えております。以上です。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

下水道は普及をしていくという事業で、その中で水洗化率を上げていくというのが、先ほどから御答弁いただいておりますように、なかなかすぐすぐ収入にはならない。ところが、今現在、令和8年度の残で見ると、今までの投資額というのが、もう1,000億円を超えてくるというような投資をしています。こんだけの金を、やはりこれから収入として返済に充てていくということは、もう非常に難しいということは数字見れば、大体分かる話なんですけれども、私、心配しておるのは、担当課から聞くと、令和8年度までは国のほうの補助事業が大体目だてがついとると、ところが、令和9年度からはまだ確定もできないし、今回いろいろとこれから令和17年まで下水道のいわゆる見通しというのを立てていただいておりますけれども、それさえも今の案としてしかないというようなことも聞くと、非常にこれからの伊勢市にとっての財政不安が非常に大きいかなと、こう思うんですけど、そのあたりの国の状況をちょっと教えていただけませんか。

◎岡田善行会長

下水道課副参事。

●川面下水道課副参事

委員御心配のように、国におきまして今のところ、目立った情報というのは入っておりません。前回、産業建設委員会のほうで御協議いただきました経営戦略の案でございますけれども、それに基づいて現在は事業のほうを進めていこうと考えておりますので、よろしくお願いします。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

そうすると、やはり伊勢市の下水道事業の収支計画というのは、おおよその今まででしたら予算として、大体通年であれば、これぐらい国の補助がもらえるよということで立てておったものが、もう概算の概算として、これぐらいは最低来るだろうということで立てられておるということになる、その前後ということになると、会計としては大変計画ができないような状況になってくると思うんですけれども、その場合の措置というのか、それはどのように考えてみえるのでしょうか。

◎岡田善行会長
上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

先月出させていただきました経営戦略におきましては、現時点での下水道課副参事がお答えさせていただきましたように、現在進めております第5期事業計画が令和12年度末までかかるということで計画はつくっております。ただ、来年度になれば、いつにか、ちょっとまだ国の情報入っておりませんけれど、そこが大幅にずれてくるようなことがあれば、当然先ほどから委員おっしゃっていただきますように、収益のほうにも影響があったりしてきますので、またそこら辺で時点修正なり、そういったものを検討していかなければならないというふうには考えております。以上です。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

それは今度は財政課との話ということになるし、ここの今の下水道の状況を見ると、令和9年からは分からない。令和12年までは第5期の計画はある。だから、ここでもう令和9年、令和10年、令和11年、令和12年と4年間も不安な中で進んでいくという計画になるわけですね。令和12年以降も、その状況というのが、今度はもう令和13年からは自分のところで収支を上げていきなさいということになってくるとか、何か国のほうのロードマップも変わってきて、その中で何か書いてありましたけれども、ロードマップの中で条件が3つぐらいあると。それをクリアしないと、これからは補助もやりませんみたいなことが書かれておると、本当かいなというような気持ちにもなるんですけれど、今まで来て、もう最終の5期目ということになるので、そのあたりのロードマップでいう条件というのをちょっと教えてください。

◎岡田善行会長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

国のほうから作成を求められておりますロードマップにつきましては、今回我々の目標としましては、経常収支比率100%以上、それから、汚水の経費をどれだけ使用料で賄っているかというふうな指標であります、回収率を80%以上ということで目標でさせていただいております。これにつきましては、国のほうも通知の中で、こちらのほうで補助金を出さない場合があるというものの最低ラインが80%であったりしますので、いきなり100%というのものなかなか現状のほうから収支見通しますと難しい部分もございますので、一旦は80%というふうにさせていただきまして、今回、計画をつくっているところでございます。以上でございます。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

大変専門用語でしたので、経営収支比率100%以上というのはどういう話なのか。もう一つは、汚水経費の回収率が80%以上じゃないといかんというのは、そこら辺の説明をしていただけませんか。

◎岡田善行会長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

大変すみませんでした。

まず、経常収支比率100%というのはどのような状態かといいますと、収益的収入支出におきまして、特別損失、それから、特別利益を除きました経常的な経費の中で黒字を出しているところでございます。これは、基準外の繰入れがあっても黒字が出ていれば100%ということになります。

ただ、こちらのもう一点の汚水経費回収率といいますのは、こちらの下水道事業費用の中で、まず雨水事業は回収には関係ないので、そちらを除いて、そこから国のほうから定められた基準内の繰入金、それも除いた経費というのが最後出てきますけれども、それを下水道使用料でまず賄う、本来ですと100%以上賄っていかなければならない。その中で国のほうもこれから整備をやっていくというこの中で、こういった自助努力といいますか、ある程度、自分のところでこの経費回収率を上げていかないと補助金も出さないというふうな、ちょっと言い方が申し訳ないんですけども、そういった形で国のほうも進めているところでございますので、御理解賜りますようよろしくお願いします。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

専門用語分かりました。結果的には、下水道の敷設をした、その収入がどれだけやはりきちっとした形で経費に充てられておるかというようなこととか、財政的な面の収支が繰入基準外、基準内は含めずにどれぐらいしておるのかというような話ですから、この間、産建であった、これからの見直しを見ると、この令和17年に向けて、令和13年以降は何らかで使用料を上げていく必要があるというような表にはなっておるんでしょうね。でないと賄い切れんと言うような、そのあたりのことについては、今もやはりこの計画どおり、下水道の使用料を上げていくということになるのかなど。今は水道料金が大体分かっていますから、水道料金と同じように下水道も取っておるということも、市民からいうと払うとすることなんですから、分かっているんですけど、やはりそのあたりは使用料を上げていくということについては、変わりはないというような状況なんじゃないかな。

◎岡田善行会長

上下水道部長。

●成川上下水道部長

先々の見通しといたしましては、2月に産業建設委員協議会で経営戦略案をお示しをさせていただきました。この先、先ほどの経常収支比率100%というのは黒字の状態ということですが、それを前提に今回、先月お示しをさせていただきましたけれども、その前提が一般会計からの繰入れを現状よりも増やした上で黒字というか、収支均衡させるという計画でございまして、現実的には、そこまでなかなか自主財源で賄うのではなく、支援で運営をしていくというのは現実的でないと、そういうふうな考えを持って、参考値として、そういった国からも示されている条件をクリアしようと思うと、下水道使用料を増やしていかなければいけないということをお示しさせていただいたわけでありまして、ですので、今回の令和8年度予算も大きな赤字予算となりましたが、その後のことを考えますと、料金改定ということはもう検討に入っている状況、いきたい、検討していきたい、そういった状況であるということで御理解をいただきたいと思います。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

今、伊勢の水道料金ですけど、市民に向けて言うのは大体標準の水道料金、何立米で、どれぐらいかかるとるか、150円というのを昔、聞いたことあるんですけども、そういう単価というのは今、幾らぐらいになっておるんでしょうか。

◎岡田善行会長

誰でしょうか。

暫時休憩します。

休憩 午後 3 時05分

再開 午後 3 時05分

◎岡田善行会長

休憩を解き、再開いたします。

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

下水道使用料、一般的な各市町と比較する場合、それから、伊勢市の平均もよく似ております。1 か月20立米使用した場合、税抜きで2,300円となっております。以上です。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

今、下水道の使用料を上げる、上げないという話で、これは上げざるを得んということが部長からも示されました。私は、水道もそうですけれど、下水道も料金を上げるというときに、料金を上げるか、それか一般会計からの繰入れを増やすか、これしかないと思っているんですよ。増やす代わりに料金そのままにしようというやり方もある。でないと、この収支というのは、この2通りしかないわけですよ。今のところ、一般会計からは20億3,500万円ですから、例えば、国の先ほどの令和9年度から令和12年度までの状況が分からない。その中で、基準内の話にしても、2億円、3億円出てくるわけです。それとは別で基準外で出していこうということになると、数字だけの話ですよ。数字だけの話ですけれども、27、8億円、できたら30億円みたいな話になるわけで、これは下水道だけでやる話ではなくて、やはり一般会計との話になりますから、財政のほうとの話というのは、どのようにこれからやっていくのか。それがすごく大事になってくるんかなと。それが、どうしてもできないということなら料金を上げるということになるわけで、水道もそうですよね。合併前に小俣地区が水道料金が安いんや、安いんやという話でしたけれども、あれは一般会計から繰り出しがあって、その分低くなっとなったというのも我々知らされました。旧伊勢市の者はね。そういうことがあるので、今、合併後の話としては、繰入金を30億円にするのか、それで何年もつのかというような計算になるし、それで使用料金を上げずに置かかという話なのか、この2通りしかないわけですよ、上げないためには。そのあたりのことについて、どのように考えてみえるのか、ちょっと担当者の方にお聞きをしたいと思います。

◎岡田善行会長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

下水道会計につきましては、先ほどからもお話しさせていただいておるように、一般会計からの繰入れがあつての成り立っている部分でございます。今後、下水道使用料を引き上げる、そういった議論の中では、当然一般会計、財政のほうと繰入金の議論も内部でさせていただきまして、市全体として検討しながら進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

もう料金を上げないための手法というのは、もうそれしかない話なんですけれど、一般会計の話をして申し訳ないんですけれど、財政課のほうとしてはどのような考え方ですか。もうそれは1円たりとも上げないというような方向なのか、ここのロードマップに基づいて、これから料金も上げていかないかんというこの見直し案を見ても、27、8億円になるということで、あと6億円、7億円というのは上げざるを得んというようなこと書いてあるわけですよ。これは認められんというような話なのか。いやいやもっと安定をさすために30億円でも、それ以上もあるというような話なのか。そのあたりは当然、下水道課との話はあると思うんですけれども、なぜそれを今、話ししとるかということ、実際には2,300円という使用料が出ました。それを3,317円まで上げるということが、もう既に出ておるわけです。そうしないと収支が合わない。それも2回ということになっていますけれど、どういう上げ方をしていくかも、もうここで議論をしていくとなると、この令和8年度の予算は、これから認める、認めないという話も大事ですけれど、認めるということになると、令和17年まで安定した財政運営やってくれよと、経営もやってくれよということになるので、なるということはせっかく一般会計から27億円、30億円の資金をもらわんといかんよねという約束になるわけでありますから、どのような感覚を持ってみえるのかお聞きをしたいと思います。

◎岡田善行会長
財政課長。

●太田財政課長

一般会計のほうですけれども、委員も御存じのように、今、苦しい状況、これには変わりはありません。この間、下水道のほうから示されました下水道事業経営戦略、そちらのほうでの繰り出しということで示されております。これに関しましては、その年度、年度の中身を協議しながら、市全体としてこういった形での予算配分をしていくか、そういったところで今後、議論していきたい、そういうふうに思っております。以上でございます。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

お答えいただきましたけれど、この表でいくと令和17年まで下水道として、多分国のほうはこれぐらいの補助が出るだろうということで組んであるわけです。ところが、今のところ、令和9年以降、令和12年まで全然分からない、国のほうの態度がね。令和9年から令和12年のその態度が分からない以上に、令和12年に工事が終わったとしても、最終的に100%収入に充てられるというのが令和16年なわけですよ、6年後ですから。令和17年というのは、もう完備して、もうほとんど収入に充てられるねというようなことを計画しておるんだけど、結果的にはそれも今のところは、下水道課の案にすぎないわけですよ。もし、国のほうの態度が変わって、もうほとんど駄目になるというような、ロードマップはクリアしたいけれど、全然駄目やというようなことも出るということになると、今さら伊勢市は事業をやめるというわけにいきません。途中でやめるといような状況もないです。ということになると、最後まで面倒見るといことになりますから、それは財政が、しっかりそのあたりは27億円以上、万一要ることになってもやれるような一般会計の全体の費用のバランスを考えてもらわないかんということになるんじゃないかなということをおもうので、それをお聞きしとるわけです。

◎岡田善行会長

市長。

●鈴木市長

宿委員さんが、下水道事業における今後の財務的な方針についてのお問合せだというふうに理解をしております。様々な点につきまして御心配いただいていることに、まず感謝申し上げたいと思います。

現在、国の補助事業につきましては、非常に変動が多い時代になってまいりました。これは下水道について言いますと、もうかれこれ6、7年ぐらい前から国の下水道事業の補助については、先々だんだん細くなってくるから、できるだけ事業を早く前倒してやっていくようにという、そんなお話もいただいたこともございます。

そういった中で、できるだけ進捗を進めていっている中なんですけれども、国の補助の在り方というのが、非常に変化が多い時代に入ってまいりまして、去年は通用しておったけれども、今年度は通用しないということが、下水道だけではなく様々なところで顕著に現れてきておりまして、そのことにつきまして、たびたび国のほうへ出向いて事情を説明して、何とか予算をつけてもらうということも進めております。

我々としては、できるだけ市民の皆さんの利用を抑えていくということも大事なポイントではありますが、もう御承知のとおり、それぞれの事業で全ての事業費が上がってきてしまっているというような状況の中で、それも一般会計で全て抑えていくことも、現実的にも難しいというような状況でもございますので、その点につきましては、丁寧な議論と丁寧な御理解をいただける努力も積み重ねてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

市長、ありがとうございます。本当に、一般会計の財政のほうもどういう態度でこれから行くかということは、もう本当に大事な話で、下水道課といろいろな話をしておっても、これは大変なことやなというのが非常に分かります。国のほうの態度が分からん以上は、もう本当に前が見えない状況の中で予算を組むということになるので、そのあたりはしっかり財政課のほうも考えてやっていただきたいと思います。

あと1点、今回、料金の見直しであったりとか、地域の見直しをするということになります。そういうことになると、また、これから地域を見直していこうかという話になったときに、エリアとしては、ちょっとまた縮小されるわけです。前回も1回あって、その縮小されたところについては下水道が行かないんなら、環境面からいくと、合併浄化槽という話になるんですけども、その状況というのが、僕は一向に進んでないような気がするんですけど、何かそのあたりのことが説明きちっとできる方はみえますでしょうかね。

◎岡田善行会長

環境課長。

●山本環境課長

すみません。これまでも毎年、広報いせのほうでは年2回、啓発のほうをさせていただいているんですけど、下水道の見直しのたびに、その見直し区域についてはそれぞれの自治会のほうに御説明に回っているところでございます。

今後、また、自治会とも相談させていただきながら進めさせていただきたいと考えております。以上でございます。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

いつものことながら、広報へ流して、または自治会長と話しすればいいというような話ではなくて、合併浄化槽は個人の問題ですから、その自治会が統一管理をしとるわけではないので、工事をするときには当然、道路の通行止めであったりとか、そういったことの案内は当然自治会としてはやっていく必要があるけれども、合併浄化槽に替えていくかどうか、補助金がこんなサービスがありますよというようなことをやるのは、個人のところへ訪問しないと、こんなことは前へ進むわけじゃないわけです。私、聞きましたけれども、一向にそれはない。来たかという話も覚えてないわけです。このあたりは、もう下水道行くか、行かんの話というのは、やはりスタートは環境面の話からあったわけなんで、そのあたりはもう少しきちとした対応をしてもらおうということになると思うんですけど、もう一度お答えをください。

◎岡田善行会長
環境生活部長。

●大西環境生活部長

御指摘ありがとうございます。特に下水道エリアから外れた地域におきましては、それまで単独浄化槽を使っている方々も多くいらっしゃいます。例えば、単独浄化槽から合併浄化槽へ転換するときには、通常の補助よりも手厚いような補助制度の準備もさせていただいております。こういった情報も、これまでちょっと伝え切れていないような、そういった側面もあろうかと思しますので、御指摘の点も踏まえまして、今後の啓発の在り方について再度、内部でも検討させていただきたいと思しますので、御理解賜りますようよろしくお願いいたします。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

今の御答弁は、私もう何度もお聞きをしました。それで、広報とかそういう話ではなくて個別の対応になるし、どういうサービスがあるかというようなことは個別にお話しせんと分らん話で、これは自治会の会長だけに言っても、会長が責任を取れるような話ではありません。ですので、そこら辺はきちっとやってほしいと思います。

これは、なぜ再度申し上げるかという、下水道のほうの事業で、これから令和12年まで進むに当たっても、その中間にまた、見直しがあるかも分かりません。見直しするということは、そのエリアから外れるところがあるということです。それは、環境と共に、両輪でやはり環境問題としてはやらないと、後追いをやっておるような状況では、私、困ると思うんですけれども、そのあたりの考え方をもう一度整理してください。

◎岡田善行会長
環境生活部長。

●大西環境生活部長

御意見ありがとうございます。今後も下水道のほうとは、これまでも連携して対応させてきております。今回、御提案、御指摘も賜りましたので、その辺も十分踏まえて、下水道と連携の上、取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

◎岡田善行会長
宿委員。

○宿典泰委員

最後に、繰越金の問題をちょっとさせていただこうと思うんですけれども、また、19億7,000万円という多額の繰越金が発生しています。私、何度も申し上げるように、やはり

令和8年度予算を組む。そうすると、令和7年度の補正で、例えば2月、3月に国が予算あるよと言うてきたら、それはもうやはり皆さん手挙げてやってほしいと思うんですけど、なぜか知らん、昨年度からの事業の中で繰り越ししとるとというのが、もう多々あります。そういったことが積み重なって19億7,000万円ということになっておるんですけど、このあたりのことは、これからの財政計画をつくるときに、非常に大事じゃないかなと思っておるんですよね。この年度で終わるよというのが、実際にはそれ以上かかってしまうということにこれになってしまうので、そのあたりのことというのはどのように、この繰越金の問題は考えてみえるのか教えてください。

◎岡田善行会長

下水道課長。

●岡井下水道課長

これまでも繰越しのことについては、削減に向けての努力、こういったものも御紹介もさせてもらって、アウトソーシングの推進であったり複数年契約、こういったものにも取り組んできました。今年度につきましては、国の会計実施検査、こういったこともあったり、また、令和9年度から国の交付金のほうが減額されることが予想されているということもありまして、事業の前倒し、こういったものも進めてきたというようなことから、繰越しが増加してしまいました。

また、先ほども紹介ありましたように補正予算、こういったことも増額の要因となっております。

いつものことになりますが、今後もこの費用の削減に向けて努力はしていきたいというふうに考えておりますので、よろしく御理解いただきますようお願いいたします。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

やはり繰越しを起こさない、その手法という発注の仕方というのを、僕は検討するべきだと思うんですけど、一向にそのあたりのことが検討されてないんじゃないかなと思っています。

やはり設計を組むときに、500メートルの下水道をやるぞというようなことであつたら、私は従事者でも建設会社でもないのだから分かりませんが、500メートルやるときに、それなら極論ですけども、100メートルずつ5社にやってもらうということがスタートとすればですよ、500メートルに収まりますわな。でも、年度内に500メートルを1社なりJVでということになると、なかなか難しいということになって繰越しが起こるとすると、やはりそちら辺の発注問題をきれいにやってもらったら、もっと行くんじゃないかなと、こう思うわけです。単純な話なんです。

いや、そういうことを、努力をしてもらいながらやれば、伊勢市の業者の方が、みんな仕事もあるわけですし、期間も縮小して会計的にはよかったということになるんじゃない

かなと、こんなことを思うんですけれど、もう一度お答え願えませんか。

◎岡田善行会長

下水道課長。

●岡井下水道課長

工事の規模のことにしましては、支障となる水道、ガスなんかの移設工事や他の事業、他の工事なんかの工程調整、こういったこともありますことから、現在、市のほうで毎月工程調整をしながら、そして、業者さんのほうで、請負業者のほうで細かな調整、そして、地元への案内をすることによって地元の負担、こういったものを軽減するようなことを考えております。

今後につきましても、できましたら、この規模で進めたいというふうに考えております。また、繰越削減につきましては、早期発注ということが重要なのかなとは思っており、そういったところも進めておるところでございます。

◎岡田善行会長

宿委員。

○宿典泰委員

毎度繰越し問題については、皆さんと平行線になって、何かかたくなに一方向のやり方しかできないということを、それはもう私ものがっかりをします。大変投資の多い事業ですからね。先ほども申し上げたように、もう1,000億円からの投資をしてやっていく事業、その負担というのは、やはり最終的には使用料を払う市民にあるわけでありまして、今回も下水道の使用料の値上げの問題を言っておりますけれど、水道も一緒のように上がるということになってくると、やはりこれは市民負担としては非常に高いものになります。かといって、市民の側は水道も下水道もやはり皆さん頑張っていていただいております。あると思うんですよ。でも、安易に値上げをするということには同意できないという立場だと思います。

それと、値上げの上げ方についても、やはりどういった上げ方をしていくのかというようなことが、これから検討されると思いますので、このあたりのことはやはり慎重に理解をもらいながらやっていくということになろうかと思いますので、そのあたり、最終的にどのようなやり方をやっていくのかということをお答え願えませんでしょうか。

◎岡田善行会長

上下水道部長。

●成川上下水道部長

先ほども料金改定の検討は、これから進めさせていただくということをお答えさせていただきました。

その検討過程におきまして、やはり下水道を使用していただいている市民の皆様にも御

理解もいただいていかなければいけないということもございます。ですので、丁寧な検討、丁寧な説明というのに努めていきたいと考えております。

そのためには、市議会の皆様方にも検討の経過を随時、適宜御相談もさせていただき、また、定期的に検針の際に発行しております上下水道部だより等々でも、市民の皆様にもお伝えして、丁寧に進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○宿典泰委員

ありがとうございます。

◎岡田善行会長

他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎岡田善行会長

発言もないようでありますので、議案第11号の審査を終わります。

次に、企業会計中、当分科会関係分の自由討議を行いたいと思いますが、御発言はございませんか。

【企業会計の自由討議】 発言なし

◎岡田善行会長

発言もないようでありますので、自由討議を終わります。

分科会の審査が終わりました。

ここで各議案について皆様の賛否を確認したいと思います。

反対する議案がありましたら教えていただきたいと思います。いかがでしょうか。ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎岡田善行会長

以上で、本分科会に振り分けられました案件の審査は終わりました。

委員の皆様におかれましては、円滑な審査に御協力いただきありがとうございました。お諮りいたします。

会長報告分の作成については、正副会長に御一任願いたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎岡田善行会長

御異議なしと認めます。そのように決定いたしました。

それでは、これをもって予算特別委員会産業建設分科会を閉会いたします。

ありがとうございました。

閉会 午後 3 時28分

上記署名する。

令和 8 年 3 月 6 日

会 長

委 員

委 員